

◆取組のポイント

*以下、学校名を東那須野中と表記

- 年度初めの校内研修で、リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」を読み、基本的な考え方の共通理解を図った。
- 学習指導案に「学ぶ意欲との関連」を位置付けた。
- 公開授業、授業研究会の後に、学ぶ意欲の向上のための研修を実施し、具体的な取組について情報交換をした。
- 他教科の教諭とのTT授業を組み、互いに指導法を学んだ。

◆学校課題との関連

研究主題：基礎・基本の確実な習得を図りながらコミュニケーション能力を育成する
授業の工夫・改善

東那須野中では、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、それらを活用する力として思考力・判断力・表現力等を育成するには、コミュニケーション能力の育成が必須であると考えて主題を設定しました。まずは、学力の重要な要素であり、確かな学力を育成する上での基盤となる学ぶ意欲の向上を目指し、学校全体で共通理解を図り研究に取り組みました。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

学校全体の結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
2.78	2.73	3.35	3.42	2.72	1.99	3.14

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
2.73	2.70	2.53	2.77	2.67	2.82

「有能さへの欲求」が高く、生徒は「できるようになりたい」という気持ちをもって、授業中に意図的に働きかけることによって、学習行動レベルの構成要素を向上させることができること、この2点について全職員で共通理解を図りました。

それらのことをふまえて、各教員が、学ぶ意欲の向上のためには授業で何ができるかを考え、学習活動の展開を工夫したり、個々の生徒への働きかけをしたりしました。

第2回のアンケートで数値が上がった学級の担任を中心に、聴き取りを行いました。聴き取った内容から、特に学ぶ意欲の向上に結びついたと思われる取組を紹介します。

(1) E教諭の取組

キャリア教育の充実を通して、自己を見つめさせる

事例1 学級活動 2年 「職業について」

単元のねらい	<ul style="list-style-type: none">・職業についての興味・関心を深め、自分の理想の将来と照らし合わせながら、職業観や勤労観の基礎を養うことができる。・職業について建設的に考え、自分の意見を相手に伝えることができる。
本時の概要	<ol style="list-style-type: none">1 学級の仕事に対する意識調査アンケートの結果と働いている人たち（販売業、農業）へのインタビューを聞く。2 自分たちと働く人の意識の違いについて、個人で考えた後、班ごとに意見をまとめて発表する。3 自分の将来について大切なこととその理由、今努力できることを考え、発表する。4 働いている人たちから「今、中学生にとって大切なこと」についてメッセージを聞く。5 本時の活動の感想を話す。

見通しをもたせ、主体的な活動を促す（自発学習、協同学習）

事前に、学習の意図と職場体験でお世話になる事業所の方にインタビューをすることを生徒全員に伝えました。また、運営担当の生徒には、学級活動当日までの手順を示し、見通しをもたせました。

アンケートの項目や事業所の方へのインタビューの内容などは、生徒達自身が話し合っ

て決めました。

授業では、運営担当の生徒一人一人が分担した役割を担い、話し合い活動を行いました。毎週行われる学級活動の時間に、このような運営の担当者を持ち回りで経験させることにより、自発的に活動したり、友達と協力し合ったりすることができるようになりました。

体験的な学習活動を取り入れる（自発学習、協同学習）

今回の学習では、担当の生徒が、働くことの実際について、事業所の方へ直接インタビューをする活動を取り入れました。その様子を撮影し、学級活動の時間に視聴して、グループごとに「働く人との考え方の違い」について話し合いました。

話し合いでは、生徒たちが、自分の考えを活発に述べ合う姿が見られました。

自分の友達がインタビューしてきたことや、答えてくれた人が身近な方であったことが、働くことについて真剣に考えるきっかけとなりました。

◇アンケートの内容◇

- 1 仕事をしていて一番楽しいこと
- 2 仕事をしていてよかったこと、つらいこと
- 3 仕事をしていて大切なこと
- 4 仕事を通して学ぶことは
- 5 何のために働くのか

現在の自分自身について見つめさせる（向社会的欲求）

実際に働く方へのインタビューでは、「仕事は楽しいことばかりでなく、苦勞も多いこと」「大変さの中にも、消費者に喜んでもらえたときに働きがいを感じること」「厳しさの中にも努力することによる喜びがあること」などが分かり、自分たちの働くことへの考えとの違いを感じ取ることができました。

E教諭は、将来、社会に出て働く生徒たちに、中学生のこの時期にやるべきことを自覚してもらいたいという願いから、インタビューに答えてくださった方に、「今、中学生にとって大切なこと」というメッセージをお願いしました。メッセージを聞いた生徒たちは、自分自身の生活を振り返って、「今、自分たちに努力できること」を文章にまとめ目標を新たにすることができました。

【生徒の感想】

- ・毎日の積み重ねが大切だとわかった。今、自分にできることを考えてやれるようにしたい。
- ・両親や地域の人に感謝し、将来たくさんの人の役に立ちたいと思った。
- ・人間関係やあいさつ、こつこつ努力することなど、仕事において大切なことは、すべて学校生活に関わる大切なことなので、今の自分の生活を見直したい。
- ・働くことの大変さがわかった。「生活のため」だけでなく「家族を幸せにするため」というのが印象的だった。
- ・働いている人は個人的な考えだけではなく、常に広い目で周りを見ることができていて、今の自分たちとは全然違う感じがした。
- ・運営係は準備など一番大変だったと思う。

2年E組は、第2回のアンケートで、次のような数値の伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	向社会的欲求	自発学習	協同学習
第1回	3.21	3.25	2.82	2.77
第2回	3.48	3.54	3.07	3.09

教師の振り返り

- ・働くことについて考えたことにより、自分から行動することの大切さに気付き、今やるべきことに自覚をもつことができました。特に、学習を頑張ろうという気持ちになった生徒が多く、家庭における自主学習への意欲的な取組が見られるようになりました。
- ・生徒が主体となった学級活動を何度か行ったことにより、普段の生活においてクラスに貢献しようとする姿が見られるようになりました。

(2) 第1学年の取組

体験を重視して、情報収集能力の向上を目指す

事例2 総合的な学習の時間 1年 「地域に学ぶ」

1学年の教諭は、書物やインターネットからの情報だけではなく、他の方法で情報を収集するにはどんな方法があるかを考えさせることにより、「もっと知りたい」という気持ちや「次はこんな方法で調べてみたい」などといった意欲につなげたいと考えました。

また、自ら選択した課題を解決して、充実感を味わわせたいという願いから、足を運んでインタビューをしたり、実体験したりする活動を取り入れました。

ねらい	「地域に学ぶ」をテーマに、情報収集や活用の仕方を学ぶ
単元の概要	1 地域の方の講話を聞く 2 各自が課題を決定 3 計画書の作成 4 事前準備（インタビューの事前連絡、質問事項の確認） 5 体験、調査 6 まとめ 7 発表（クラスでの発表→3年生の発表会に参加→保護者参観にて全体発表）

自分の興味に基づき課題を設定する（自発学習）

個人の課題設定に先立ち、学習への関心を高めるために、地域で活躍する製パン業の社長さんをお招きし、講話をいただきました。自分の住む地域には素晴らしい方がいるということを確認するとともに、自分の郷土に興味を抱き、もっと調べてみようという意欲をもたせることをねらいとしました。

課題設定の際には、那須地区と限定せず、栃木県全体を視野に入れた上で「自分の興味のあるもの」としたことにより、一人一人が意欲をもって取り組むことができました。

【課題例】

「栃木のいちご」「那須塩原の自然」「大鷹の湯」「那須にはなぜ雷が多い？」
「栃木の方言」「栃木に伝わる言い伝え」
「栃木のグルメ」

【調べ方】

◎必ず実体験を伴ったものとする

- ・インタビュー
- ・現地調査
- ・料理、制作 など

課題解決の方法や記録の仕方を選択する（情報収集）

どんな方法で課題解決できるかをそれぞれ考えさせました。そして、郷土料理を実際に作ってみたり、工場見学を試してみたり、現場に行き写真撮影したりなど、体験を伴う調べ学習を行いました。その後、疑問に思ったことを本やインターネットを利用し、詳しく調べた生徒もいました。

インタビューに行く際には、事前に連絡を取り、質問事項の確認などの準備をさせました。働く人から直接、話を聞くことができたことにより、学校課題であるコミュニケーション能力を身に付けることにもつながりました。

学習のまとめで充実感を味わわせる（充実感）

次のような流れで、発表を行いました。

- 調べたことを模造紙にまとめ、クラスで発表会を行う。
- 3年生の発表会に参加する。
- 3年生の発表をモデルとして、自分の発表の準備をする。
- 学年での全体発表会（保護者を招待）を行う。
 - ・クラスでの発表より自信をもって臨めた。
 - ・緊張感があったが、伝え方は向上していた。
- 友達の発表にコメントを書く。

【発表の様子】



〔生徒の感想〕

- ・インタビューをして相手のことが理解できた。人間性についても学べた。
- ・関係者以外立ち入り禁止の場所にも通してもらい、仕事場の様子が見られた。
- ・みんなまとめ方が上手で、栃木のことをいろいろ知ることができてよかった。次回はもう少し詳しく調べたい。
- ・初めての発表でスムーズにできなかったけれどがんばった。
- ・みんなの発表が参考になった。今後、発表をする機会があったら、もっとゆっくり話したい。

第1学年は、第2回のアンケートで、次のような伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	向社会的欲求	情報収集	自発学習
第1回	3.31	3.45	2.72	2.62
第2回	3.41	3.48	2.83	2.79

教師の振り返り

- ・自分たちの発表の前に3年生の発表を聞いたので、イメージをつかむことができたようです。調べたことを伝えようとする意欲が高まり、よりよい発表を心がけていました。
- ・自分で作成した資料を基に、人前で発表するという経験をしたので、自信をもてるようになりました。

(3) F 教諭の取組

学習の手順やゴールの姿を示し、進んで取り組ませる

事例3 国語 1年 「本の世界を広げよう」

単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の世界に興味をもち、感動の所在を確認しながら読み味わう。 ・豊かなイメージの想像を促す情景・状況の描写や表現に気付く。 ・作品の面白さが伝わるよう想像をふくらませて発表原稿を作成する。
単元の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 選んだ小説の感想を話し合う。 2 4人グループで、前時に読んだ小説を紹介するボードを作成するためにワークシートに沿って意見の交換をする。 3 よい部分を探し、1枚のボードにまとめ、発表原稿を作る。 4 次時の発表に向け3段階に分けてリハーサルを行う。 5 クラス全体に向け発表する。

手順とゴールを明確にして取り組ませる（有能さへの欲求、自発学習）

学習の手順やゴールを示すことで、安心して取り組むことができます。単元の始めにねらいと学習の手順を示し、単位時間の始めにも本時の学習の手順を伝えました。単元と本時のゴールを理解し学習の見通しをもつことで、「自分にもできそう」と感じ安心して主体的に取り組むことができました。

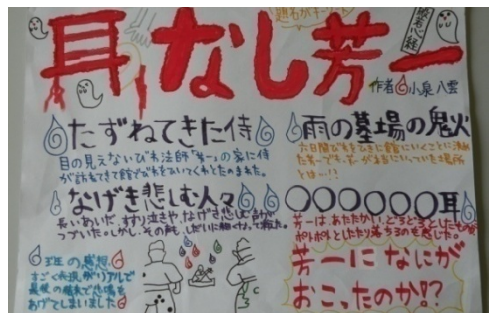
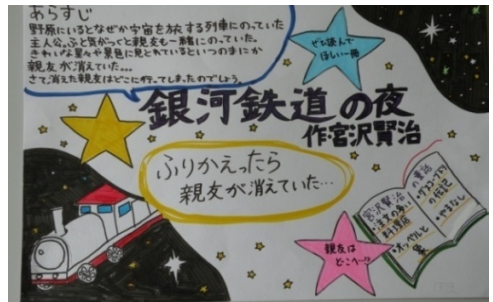
【手順を示したワークシート】

文学作品を読んで、その面白さをほかのグループに伝えよう

△手順▽

- ・ 選んだ小説を途中で読む。
- ・ その後の展開を各自で予想する。
- ・ 各自の予想を班で話し合い、班の予想を立てる。
- ・ 小説の続きを読む。
- ・ 読んでみてどうだったかを話し合う。
- ・ (本時)
- ・ 感動を読んでいる人に伝えるための資料を各自で作る。
- ・ 各自の資料を班で読み合い、良い部分を合わせてひとつの作品を作る。
- ・ 発表するための原稿を作る。
- ・ 発表練習を行い、アドバイスを受けてより良いものに直す。
- ・ 作品を清書する。
- ・ 発表する。

【完成作品の例】



自分の考えと友達の考えを比較し、発表の仕方を助言し合う（協同学習、深い思考）

互いの意見を交換することで、考えの違いに気付くことができます。

グループで原稿を書く時には、聞いた人が「その小説を読みたい」と思うような発表にするように伝え、「印象に残った場面や景色」「印象的だった言葉や行動」「特に紹介したい場面」などの視点で考えるように指導しました。

作成した発表資料や原稿を基に、3段階（班の中で→先生の前で→他の班の前で）に分けてリハーサルをしました。それぞれが上記の視点で具体的にアドバイスをし合うことができました。これを生かしてよりよい発表になるように発表原稿を推敲させ、発表本番に臨ませました。

F教諭は、他の単元でも、協同学習をさせた上で発表させる活動を意図的に設定しています。段階を踏んだ発表の準備をすることで堂々と発表ができるようになってきました。このような成功体験をさせて、有能感を高めたいと考えています。

【発表内容について話し合っている様子】



【発表の様子】



1学年の全クラスとも、この授業を実施しました。1学年の第2回のアンケート結果から、次のような伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	自発学習	深い思考	協同学習
第1回	3.31	2.62	2.75	2.92
第2回	3.41	2.79	2.82	2.98

教師の振り返り

- ・グループで取り組ませたことにより、発表用原稿や資料がよりよいものに仕上がりました。
- ・発表も役割を分担したので、一人一人が充実感を味わえたようです。
- ・夏休み中に、発表した作者の他の本も読んだ生徒がいました。

(4) 校内研修の取組

授業研究会では、本時の授業で生徒が意欲的に学習していた場面について話し合い、その後、各教師が取り組んでいる意欲を高めるための工夫について情報交換を行いました。

次に、「学習に関するアンケート」の質問項目別平均値の高い順に並べ替えた一覧表を活用し、自校の課題を確認して、どのような働きかけが必要なのか共通理解を図りました。

「学習に関するアンケート」の質問項目別平均値

要素略称	No.	第2回	第1回	質問項目
向社会的	28	3.67	3.60	思いやりのある人になりたい。
有能さ	15	3.55	3.45	もっとかしくなりたい。
充実感	3	3.35	3.31	毎日、明るく元気に生活している。
向社会的	9	3.33	3.26	社会のために役立つような人になりたい。
有能さ	8	3.32	3.27	自分もっている能力を十分に発揮したい。

上位には、欲求・動機レベルの要素が多い。

協同学習	11	2.88	2.85	授業では友だちと協力して学ぶことも多い。
独立達成	17	2.80	2.77	できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。
自発学習	19	2.79	2.73	自分から勉強に取り組んでいる。
知的	4	2.78	2.78	よくわからないことは、わかるまで調べたい。
挑戦行動	13	2.78	2.77	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。

おもしろさ	24	2.56	2.54	失敗しても学ぶことはおもしろい。
安心	12	2.32	2.37	先生は学習のことについてほめてくれる。
挑戦行動	20	2.24	2.30	むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。
有能感	10	2.03	2.16	勉強面では友だちからたよられていると思う。
有能感	23	1.77	1.84	自分は勉強はよくできると思う。

具体的な課題が見えてくる。

研修の中で、多くの教師から、「学ぶ意欲の数値の高い生徒は、自分の進路への関心が高い傾向にある」という話がありました。このことから、中学生という発達段階において、キャリア教育を充実していくことは、学習意欲を高めることの手立ての一つであると考えられます。